

- 問1 1979年から2009年にかけての店舗数の統計において、「中心地域型」と「郊外型」が占める割合の変化（構成比の推移）を視覚的に表現したい場合、最も適切なグラフの形式はどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）
- 2つのデータの間にある相関関係を、点の集まりによって示す「散布図」
 - 店舗数の実数値が、時間の経過とともにどのように増減したかを線で結んで示す「折れ線グラフ」
 - 各年代の合計を100%として、項目の内訳の変化を積み上げた長方形で示す「帯グラフ」
 - 特定の1年における店舗数の内訳のみを、円を分割して示す「円グラフ」
- 問2 日本のエネルギー供給の状況を示した資料において、2010年のエネルギー自給率は19.9%でしたが、2012年には6.0%にまで低下しています。この時期のエネルギー供給の内訳の変化について述べた文として、正しいものを次の中から選びなさい。（2017年 佐賀県公立入試 類似）
- 国内の石炭産出量が増加したことにより、これまで輸入していたエネルギーを国内産に切り替えた。
 - 太陽光や風力などの再生可能エネルギーの供給割合が急激に減少したことで、自給率が押し下げられた。
 - 原子力発電の割合が縮小したことで自給率が低下し、不足分を補うために石油や天然ガスなどの輸入が増加した。
 - 水力発電がすべて停止したため、不足した電力を補うために隣国からの電力輸入を本格的に開始した。
- 問3 製造品出荷額の構成において、機械工業が約36.5%、化学工業が約20.7%、金属工業が約18.7%を占める工業地域を選択肢から選びなさい。この地域は、沿岸部に大規模な石油化学コンビナートが形成されていることで知られています。（2019年 山口県公立入試 類似）
- 中京工業地帯
 - 北九州工業地域
 - 阪神工業地帯
 - 瀬戸内工業地域
- 問4 日本の主要な空港における貨物取扱量の統計において、国際線貨物取扱量が1,900千トンを超え、2位以下の空港に数倍以上の差をつけて国内最大の国際物流拠点となっている空港はどこか、名称を答えなさい。（2014年 沖縄県公立入試 類似）
- 関西国際空港
 - 東京国際空港（羽田空港）
 - 成田国際空港
 - 中部国際空港
- 問5 都市の人口構造において「昼夜間人口比率」という言葉が使われます。この比率が100パーセントを大きく超える地域の特徴を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。（2023年 大阪府公立入試 類似）
- 住宅供給公社による大規模な住宅団地が整備された地域であり、都心へ通勤する現役世代が多いため、昼間の人口が極端に少なくなっている。
 - 大規模な工場が立ち並び工業地帯であり、交代制勤務のために昼間と夜間の人口が常に一定に保たれている。
 - 都市の中心部にあたり、オフィスビルや商業施設が集中しているため、通勤や通学によって流入する人口が居住人口を上回っている。
 - 都市の郊外にあたり、豊かな自然環境を求めて移住する人が多いため、夜間に滞在する居住人口が昼間の活動人口を上回っている。
- 問6 日本の都道府県における人口移動の統計では、地域ごとに異なる特徴が見られます。東京都では転入者が転出者を大幅に上回る一方で、沖縄県では出生数が死亡数を上回る傾向が続いています。これらの状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2024年 栃木県公立入試 類似）
- 東京都では社会増が著しく、沖縄県では自然増が見られる。
 - 東京都では自然減が著しく、沖縄県では社会減が見られる。
 - 東京都では社会減が著しく、沖縄県では自然減が見られる。
 - 東京都では自然増が著しく、沖縄県では社会増が見られる。
- 問7 日本における貨物輸送の現状とモーダルシフトの仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。なお、国内の拠点配置を示した資料では、日本の全地方に貨物鉄道の路線と拠点が網羅されているものとします。（2023年 東京都公立入試 類似）
- 二酸化炭素の排出量を削減するため、貨物列車による輸送から、機動性の高い営業用貨物自動車への転換が進められている。
 - 貨物鉄道のネットワークは維持が難しいため、現在では貨物ターミナル駅の設置は人口の多い関東地方と近畿地方のみに限られている。
 - 環境負荷を最小限にするため、工場から最終的な納品先まで、トラックを一切使用せずに鉄道のみで完結させる仕組みを指す。
 - 日本国内の全ての地方に、貨物鉄道の路線と、積み替えの拠点となる貨物ターミナル駅が設置されている。
- 問8 千葉県のような大都市に隣接する地域では、農業産出額のうち野菜が約37%、畜産が約29%を占め、米の割合を大きく上回っています。このような生産傾向が見られる理由として適切なものはどれですか。（2024年 石川県公立入試 類似）
- 都市部への輸送距離の短さを活かし、鮮度が求められる作物や需要の多い畜産物の生産に力を入れているため。
 - 大都市周辺は一年中気温が高く、米を作るよりも野菜を育てる方が土壌の性質に適しているため。
 - 政府の政策により、大都市の周辺地域では米の生産が法律で厳しく制限されているため。
 - 広大な平野部が少なく、大規模な機械を導入した米作りが物理的に不可能であるため。
- 問9 愛知県における工業の統計において、製造品出荷額等の内訳を確認すると、輸送用機械が56%を超えており、他県と比較しても圧倒的に高い割合を示しています。このような産業構造を持つ中京工業地帯の現状について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2021年 鳥取県公立入試 類似）
- 広大な臨海部に大規模な石油化学コンビナートが形成され、化学工業が全産業を牽引している。
 - かつては鉄鋼業が中心であったが、現在はＩＣ（集積回路）などの電子部品生産に特化している。
 - 自動車関連の工場が数多く集積しており、特定の産業分野に大きく依存した構造になっている。
 - 印刷業や金属工業など、消費地に近い利点を生かした多種多様な中小工場が密集している。
- 問10 鹿児島空港や熊本空港の統計データによると、入国者の大半を韓国、香港、台湾などの出身者が占めています。例えば、鹿児島空港における香港からの入国者割合（41.8%）や、熊本空港における韓国からの入国者割合（58.6%）は、全国平均と比較しても非常に高い数値です。これらの空港に見られる特徴的な状況の説明として正しいものを選びなさい。（2019年 鹿児島県公立入試 類似）
- 国際定期便のほとんどが貨物輸送に特化しており、観光目的の旅客による入国者の割合は極めて低い。
 - 近年はアジア圏との結びつきが弱まっており、代わってオセアニア地域からの入国者が最も多い割合を占めている。
 - アメリカやヨーロッパなどの遠方から入国した人の割合が大きく、世界規模の国際ハブ空港として機能している。
 - 近隣のアジアの国や地域と国際線で結ばれ、そこからの入国者が全国平均より高い割合を示している。
- 問11 日本の畜産業における肉用牛の飼育状況について、秋田県や鹿児島県などの統計では、1977年から2017年にかけて一戸あたりの飼育頭数が一貫して増加しています。このような変化が起きている背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 秋田県公立入試 類似）
- 飼育農家の数は減少しているが、生き残った農家が経営の効率化を目指して大規模化を進めたため。
 - 国内の牛肉消費量が大幅に減少したため、農家が在庫として抱える牛の数が増加したため。
 - 若者の農業離れに歯止めがかかり、全国的に畜産を始める新規就農世帯が増えたため。
 - 政府がすべての農家に対して、一律に同じ頭数の肉用牛を飼育することを法律で義務付けたため

答え合わせ・解説

問1	答え 3 各年代の合計を100%として、項目の内訳の変化を積み上げた長方形で示す「帯グラフ」	複数の年次におけるデータの「構成比（全体に占める割合）」の変化を比較するには、100%積み上げ棒グラフとも呼ばれる「帯グラフ」が適しています。単なる数値の増減であれば折れ線グラフが適していますが、全体の中で「郊外型」が占める割合がどれほど拡大したかという構造の変化を強調する場合には、各年代の合計を100%として比較できる形式が最も効果的です。
問2	答え 3 原子力発電の割合が縮小したことで自給率が低下し、不足分を補うために石油や天然ガスなどの輸入が増加した。	2010年から2012年にかけて日本のエネルギー自給率が激減した主な要因は、原子力発電の停止や稼働減少です。原子力は自給率に寄与するエネルギー源であったため、その割合が縮小したことで自給率が低下しました。この不足分を補うために、火力発電の燃料となる原油や天然ガス、石炭といった化石燃料の輸入依存度がさらに高まる結果となりました。
問3	答え 4 瀬戸内工業地域	瀬戸内海沿岸に広がるこの地域は、かつての塩田跡地や埋立地を利用して大規模な工場が建設されました。特に岡山県の水島や山口県の周南などには石油化学コンビナートが形成されており、化学工業の割合が全国平均と比較して高いのが大きな特徴です。一方で、愛知県を中心とする中京工業地帯は機械工業の割合が約7割に達しており、その構成は大きく異なります。
問4	答え 3 成田国際空港	千葉県に位置するこの空港は、日本を代表する空の玄関口として整備されてきました。特に電子部品や精密機器、医薬品といった「軽くて高価な」製品は、迅速な輸送が求められるため航空貨物として扱われることが多く、世界的なネットワークを持つこの空港が国内最大の拠点となっています。その取扱規模は、アジアのハブを目指す那覇空港などの地方拠点空港を圧倒しています。
問5	答え 3 都市の中心部にあたり、オフィスビルや商業施設が集中しているため、通勤や通学によって流入する人口が居住人口を上回っている。	昼夜間人口比率は、夜間の居住人口に対する、昼間の人口（居住人口に通勤・通学による流入・流出を加減したもの）の割合を示します。東京の千代田区などの都心部では、居住用の住宅よりもオフィスや商業施設が多いため、夜間に生活する人数に比べて、昼間に仕事や学習のために集まる人数が圧倒的に多くなり、比率が高くなります。
問6	答え 1 東京都では社会増が著しく、沖縄県では自然増が見られる。	東京都は進学や就職のために他県から移り住む人が多いため、転入超過による「社会増」が人口増加の主な要因となっています。一方、沖縄県は日本の中で相対的に合計特殊出生率が高く、出生数が死亡数を上回る「自然増」の状態を維持していることが特徴です。このように、総人口の変化の内訳を分析することで地域の課題や特徴を捉えることができます。
問7	答え 4 日本国内の全ての地方に、貨物鉄道の路線と、積み替えの拠点となる貨物ターミナル駅が設置されている。	2020年時点の日本では、七地方区分の全てにおいて貨物鉄道の路線が通り、貨物ターミナル駅が設置されています。モーダルシフトの一般的な流れは、工場からトラックで運ばれた貨物をターミナル駅で鉄道へ積み替え、目的地の近くで再びトラックに積み替えて納品先へ運ぶという形式をとります。したがって、「鉄道のみで完結させる」という説明や、拠点を「特定の地方に限定している」という説明は誤りです。また、モーダルシフトは「トラックから鉄道・船舶へ」の転換であり、その逆ではありません。
問8	答え 1 都市部への輸送距離の短さを活かし、鮮度が求められる作物や需要の多い畜産物の生産に力を入れているため。	大都市周辺の農業では、土地の価格が高いため、付加価値の高い農業が求められます。統計において野菜や畜産の産出額が高いのは、輸送コストが抑えられる利点と、新鮮な野菜を求める都市住民のニーズに応える生産体制が整っているからです。これに対し、広い土地を必要とする米作りよりも、集約的に生産できる野菜や畜産が優先される傾向にあります。
問9	答え 3 自動車関連の工場が数多く集積しており、特定の産業分野に大きく依存した構造になっている。	中京工業地帯は、世界的な拠点を持つ自動車メーカーやその関連企業が集中しているため、製造品出荷額の半分以上を輸送用機械が占めるという極めてユニークな構成になっています。このため、自動車の売れ行きや世界情勢が地域経済に与える影響が、他の工業地帯よりも大きいという背景があります。
問10	答え 4 近隣のアジアの国や地域と国際線で結ばれ、そこからの入国者が全国平均より高い割合を示している。	地方空港の国際化においては、その地域の地理的特性が強く反映されます。鹿児島空港や熊本空港の場合、ソウル、大邱、台北、高雄、香港といったアジアの主要都市と直接結ばれているため、全国平均（韓国22.1%、香港6.7%など）を大きく上回る割合で近隣諸国からの入国者が集まります。これは日本の諸地域が、国単位の平均とは異なる独自の国際的なネットワークを形成している具体例といえます。
問11	答え 1 飼育農家の数は減少しているが、生き残った農家が経営の効率化を目指して大規模化を進めたため。	日本の畜産業では、後継者不足や高齢化によって飼育農家自体の数は減少が続いています。その一方で、一軒あたりの経営規模を拡大して生産性を高める「経営の大規模化」が進んでおり、その結果として統計上の一戸あたりの飼育頭数は増加傾向にあります。秋田県や鹿児島県といった主要な産地においても、この大規模化の傾向は共通して見られる特徴です。